

文部科学省 社会システム改革と研究開発の
一体的推進
地域再生人材創出拠点の形成

里山野生鳥獣管理技術者 養成プログラムについて

宇都宮大学地域デザイン科学部
高橋 俊守

経緯

- 平成21年度 文部科学省科学技術振興調整費 地域再生人材創出拠点の形成「里山野生鳥獣管理技術者養成プログラム」採択
 - 政権交代により、科学技術振興調整費については、科学技術戦略推進費、社会システム改革と研究開発の一体的推進へと改名
- 平成25年度 事業終了・継続事業開始

地域再生人材創出拠点の形成

大学等有する個性・特色を活かし、将来的な地域産業の活性化や地域の社会ニーズの解決に向け、地元で活躍し、地域の活性化に貢献し得る人材の育成を行うため、地域の大学等（又は地域の大学等のネットワーク）が地元の自治体との連携により、科学技術を活用して地域に貢献する優秀な人材を輩出する「地域の知の拠点」を形成し、地方分散型の多様な人材を創出するシステムを構築する。

対象機関：大学、大学共同利用機関及び高等専門学校（地元の自治体との共同提案とする）

実施期間：5年間

支援規模：年間5,000万円を上限

採択プロジェクト数：53

計画の概要

鳥獣害が地域の更なる衰退を招き、
悪循環を生じている

高齡化・過疎化が進展

耕作放棄地の増大



農業収入・営農意欲に打撃

耕作放棄地の増大

高齡化・過疎化が更に進展

鳥獣対策技術者の養成と各地域への配
置、人的ネットワークの形成が課題



被害面積 約237ha 被害金額 約3億円
(平成25年度農水省全国都道府県調査)

宇都宮大学農学部附属里山科学センターの設置 (平成21年7月～平成26年3月)



生態系・生物多様
性と人間活動



野生鳥獣管理の
技術者養成



里山コミュニティ・
ビジネスの創出



里山環境教育・地
域貢献活動

世代を越えた、人と
人の絆、人と自然の
関係を科学的なアプ
ローチによって再構
築し、



多様な主体が参画す
る社会を形成するこ
とで、人間の福利につ
ながる豊かさを求め
る。

大学

自治体

地域
住民

市民
団体

企業

栃木県とは包括連携協定を締結

人材養成の構想

鳥獣管理技術者の養成

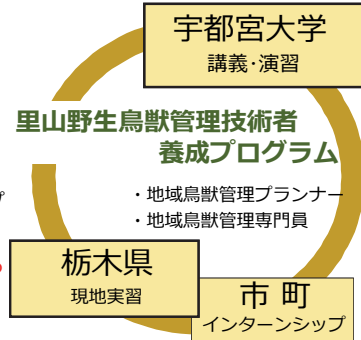
地域の鳥獣対策を担う技術者を養成する

- ・ 宇都宮大学：講義・演習
- ・ 栃木県・市町：現地実習・インターンシップ

対策ネットワークの構築

養成人材が地域で活動するための基盤を作る

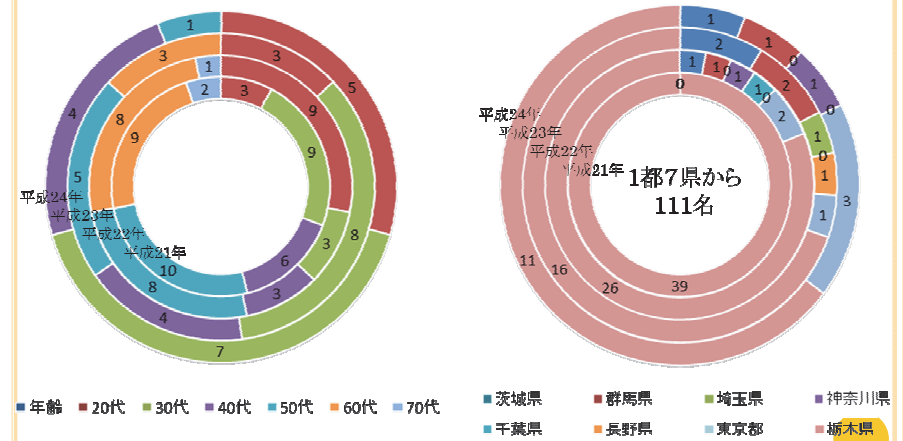
- ・ 宇都宮大学：研究・教育で支援
- ・ 自治体：現場の調整・補助事業で支援



人材養成のカテゴリー	養成修了者数 目標	養成修了者数 実績
■地域鳥獣管理プランナー養成コース 鳥獣害対策の計画を策定することができる総合的な能力を養成する	20 (10)	36 (16)
■地域鳥獣管理専門員養成コース 具体的な獣害対策を現場で助言・指導できる実務的な技術力を養成する	40 (20)	37 (20)
合計	60	73

※カッコ内の数字は3年経過時の実績・目標人数を示す。

受講生の内訳



公務員(28%)、会社員(25%)、無職(14%)、自営(13%)、大学院生(12%)

人材養成の方法と役割分担

- 5科目の講義 **大学**
 - ・ 鳥獣被害から里山管理まで体系的知識の学習
- 2科目の演習 **大学**
 - ・ 科学的な調査やデータの分析手法の学習
- 2科目の現地実習 **栃木県**
 - ・ 県内各地の被害現場をフィールドとした対策実習
- インターンシップ **市町**
 - ・ 市町役場や県の試験研究機関を受け入れ先とするインターン
- 修了課題 **大学・栃木県**
 - ・ 担当教員の指導によるマンツーマン指導
 - ・ 修了課題発表会での成果発表
 - ・ 修了課題審査委員会による可否判定



演習 GISを用いたフィールドデータ構築



現地実習 サル侵入防止柵の設置



インターンシップ 集落における獣害聞き取り

修了要件

- 履修単位数、学習時間、修了課題

	鳥獣管理プランナー養成コース	鳥獣管理専門員養成コース
履修単位数	7単位以上 必修科目：里山と野生鳥獣、里山野生鳥獣生態学、里山野生鳥獣管理学特論、野生鳥獣管理学演習 ⇒平均13.8単位取得	7単位以上 必修科目：里山と野生鳥獣、野生鳥獣管理現地実習Ⅰ・Ⅱ ⇒平均13.1単位取得
学習時間	120時間以上で履修証明 ⇒平均136.8時間 ⇒修了者の83%が取得 (修了課題への取り組み時間は別途)	120時間以上で履修証明 ⇒平均120.9時間 ⇒修了者の77%が取得 (修了課題への取り組み時間は別途)
修了課題	修了課題発表・審査の合格 鳥獣被害に関する情報の収集とデータベース作成、生態学的知見に基づく被害発生要因の予測、地域協議会等の取り組み主体への計画の提案などに関連する知識とスキルを身に付けているか	修了課題発表・審査の合格 動物の痕跡からの加害獣同定、わなや侵入防止柵の現場での設置、刈り払い等環境管理方法の指導助言、捕獲した野生鳥獣の有効活用などに関連する知識とスキルを身に付けているか

新たな技術者資格の創設（情勢への対応）

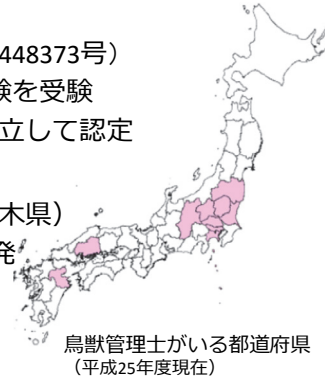
鳥獣被害が深刻化して全国的に社会問題となり、例えば鳥獣保護法の改正が国会でも議論されるようになる。

○「鳥獣管理士」資格制度の創設

- 商標登録を取得（商標権設定登録第5448373号）
- 修了者の9割（66名）が資格認定試験を受験
- 一般社団法人鳥獣管理技術協会を設立して認定

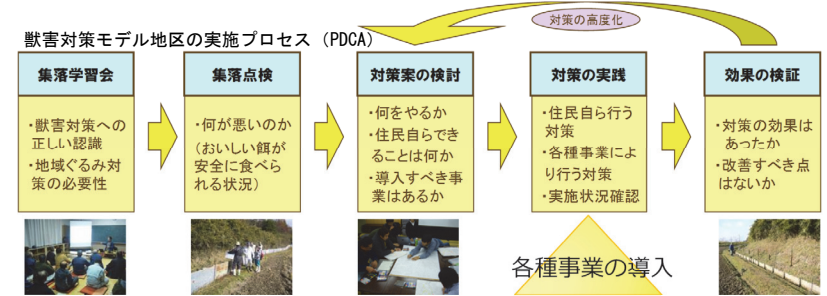
○技術者ネットワークの構築

- 修了者による自立的な団体設立（栃木県）
- 鳥獣管理士・CPD登録会員制度の開発
- フォーラム・研修会の開催
- ホームページ、メーリングリスト



有効性・波及効果・修了者の活躍事例

- とちぎ鳥獣管理士協会（平成25年～）
 - 20名以上の修了者による自主的なネットワーク組織
 - 栃木県庁近くに事務所を設置、ホームページ開設
- 獣害対策モデル地区の設置（平成22年度～）
 - 栃木県内10箇所に設置（予定含む）
 - 平成26年度からは栃木県が予算化して修了者を配置



有効性・波及効果・修了者の活躍事例

○全国的な需要と反響

里山野生鳥獣管理技術者養成プログラム	5年間で栃木県に加えて東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県、群馬県、長野県の1都7県から111名を受け入れ
鳥獣管理技術者養成セミナー（継続事業）	1年目で東京都、神奈川県、栃木県、群馬県、秋田県、山形県、京都府の1都1府5県から30名を受け入れ

- 実施期間中の報道は100件以上（内10件は全国報道）
- 国会・国・地方自治体・大学からの照会

○修了者の公務員等への登用実績

種別	プランナーコース修了者	専門員コース修了者	合計
公務員	国職員	1	2
	県職員	2	5
	県高校教諭	2	2
	市町職員	2	11
	大学職員（教員・研究職）	2 (1)	2
団体等職員	社団・財団法人	2	2
	海外協力隊	2 (1)	2
人材登録	国登録（農水省・環境省）	3	3
	県登録（栃木県農政部）	6	9

※カッコ内の数字は学生から新たに就職した者の人数内訳を示す。

プログラムの継続性、発展性を見通し

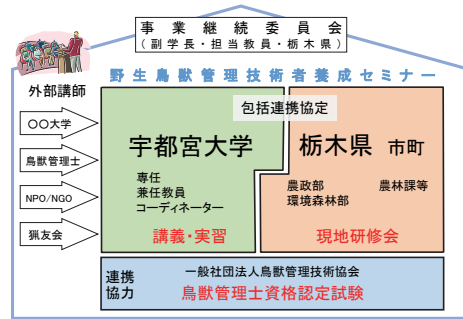
- 宇都宮大学に新たな学習プログラムを設置
- 獣害対策モデル地区において、大学と連携して現地研修を継続して実施
- 「鳥獣管理士」が自主的に運用する里山野生鳥獣協働管理フォーラムが地域の相談窓口として機能
- 鳥獣管理技術協会は、認定にかかわる試験の実施や、人材養成事業の一部を引き次いで実施



「鳥獣管理士」、行政、専門家、住民の協働による新しい鳥獣管理体制の確立へ

継続体制

- 宇都宮大学は、一般社団法人鳥獣管理技術協会と共催で、講義・実習の公開講座を開講する。
- 栃木県は、県内各地で現地研修会を実施し、受講生を受け入れる。
- 受講生の出席管理は、出席カードを作成して、大学と県担当でそれぞれ協力して受け持つ。
- 受講生の履修状況に応じて、鳥獣管理士資格認定試験の受験資格が付与される。
- 一般社団法人鳥獣管理技術協会は、本事業に連携協力し、受講生を対象に資格認定試験を実施した上で、鳥獣管理士資格を認定する。



平成26年度の開催講座

(宇都宮大学・栃木県・鳥獣管理技術協会の主催するもの)

野生鳥獣管理技術者養成セミナー

平成26年度鳥獣管理士養成講座 30時間
とちぎ獣害対策地域リーダー育成研修会 45時間

鳥獣管理フォーラム 6時間

鳥獣管理指導者研修 5時間

関連講座

イノシシ被害防止研修会 (宇都宮市) 1.5時間×7回
くくりワナ講習会 (宇都宮市) 2時間×3回

開講時間100時間以上

継続事業の実績

事業名	平成21～25年度	平成26年度	平成27年度	合計
里山野生鳥獣管理技術者養成プログラム	73 (66)			73 (66)
鳥獣管理士養成講座・宇都宮 (宇都宮大学公開講座)	-	28 (19)	24 (16)	52 (35)
鳥獣管理士養成講座・東京 (鳥獣管理技術協会自主講座)			13 (10)	13 (10)
とちぎ獣害対策地域リーダー育成研修業務 (栃木県委託業務)	-	20 (3)	18 (3)	38 (6)

- 上段は修了者数、下段はその内鳥獣管理士資格認定者数を示す。
- 平成21年度から開始された大学と県の連携事業に関係する修了者で、鳥獣管理士資格認定者の累計は101名。

鳥獣管理士の現況

鳥獣管理の専門的な教育を受けた者または、鳥獣管理CPD単位を取得して受験資格を獲得した者を対象に、一般社団法人鳥獣管理技術協会が試験を実施して認定する資格制度

現況登録人数 116名

1級 (5名)
準1級 (33名)
2級 (29名)
3級 (49名)

男性 96名 女性 20名



鳥獣管理士の全国分布現況
(平成28年度現在)

(鳥獣管理士 平成23年11月4日商標権設定登録第5448373号)